

小田原消防150年のあゆみ

年 代	変 遷
江戸時代	小田原藩町火消は19町の戸主が組織する。
明治2年5月	とび職による常備消防夫として組織する。(80名) ※手当15円/年、出場毎に2銭の弁当料を支給
明治11年4月	小田原町全域に町設消防組として組織する。(19組、600名)
明治17年1月11日	出初式を初めて西海子(現在の南町)で挙行する。 ※腕用ポンプ
明治27年2月9日	消防組規則制定に伴い、小田原公設消防組を組織する。(5部、580名) ※手押しポンプ
明治41年	小田原消防組を組織する。(24ヶ分隊(2ヶ分隊とび職の破壊消防含む)、組頭以下770名) ※ガソリンポンプ11台、手押しポンプ11台
昭和5年10月1日	小田原町消防組を改組し小田原町常設消防部を発足する。(組頭以下122名) ※望楼設置、フォード消防自動車3台
昭和14年4月1日	消防団令に基づき消防組を改組し、小田原町警防団として組織する。
昭和16年	前年の市制施行に伴い、小田原市警防団として組織する。(1,381名)
昭和23年3月7日	消防組織法施行に伴い、警察行政より分離して小田原市消防本部、消防署並びに消防団を設置、自治体消防を発足する。 ・組織 消防長以下37名、消防団15個分団、特設2個分団、1,237名 ・設備 消防車6台 ・設置場所 小田原市幸1-138
昭和26年7月16日	足柄出張所を設置する。 ・組織 消防職員16名 ・設備 消防車2台 ・設置場所 小田原市多古644 消防本部の係を庶務、予防、消防の3係とする。
昭和31年6月4日	川東分署を設置する。(消防職員定数82名) ・組織 消防職員16名 ・設備 消防車2台 ・設置場所 小田原市国府津2,493 足柄出張所を足柄分署に改める。
昭和35年7月1日	救急車1台を本署に配備し、救急業務を開始する。
昭和36年5月25日	西分署を設置する。 ・組織 消防職員16名 ・設備 消防車2台 ・設置場所 小田原市南板橋2-255 足柄分署を北分署に、川東分署を東分署に改める。
昭和38年4月1日	西大友分遣所を設置する。 ・組織 消防職員8名 ・設備 消防車1台 ・設置場所 小田原市西大友9
昭和46年4月1日	橋町合併に伴い、消防団を22個分団732名とする。
昭和63年4月1日	城北分署を設置する。 ・組織 消防職員20名 ・設備 消防車2台 救急車1台 連絡車1台 ・設置場所 小田原市栢山3017-2 消防職員定数を186名とする。
平成6年8月1日	消防本部を小田原市前川183-18に移転する。 ・構造 鉄筋コンクリート造 3階建塔屋付 ・延床面積 3,931.8㎡ 旧庁舎を中央分署とする。
平成18年8月1日	中央分署及び西分署を統合し南分署を設置する。 ・構造 鉄筋コンクリート造4階建 ・設置場所 小田原市南町1-9-36
平成25年3月31日	消防の広域化により南足柄市及び足柄上郡5町(中井町、大井町、松田町、山北町及び開成町)から消防事務を受託する。 ・1本部2署2分署7出張所で、職員数353名の配備態勢となる。 ・署所の名称を改める。小田原消防署、南町分署、荻窪出張所、国府津出張所、栢山出張所、西大友出張所、足柄消防署、松田分署、岡本出張所、山北出張所、中井出張所を配置する。 ・機構改革により、消防総務課を総務係と財務係とする。広域調整課(広域調整係、消防団係)を新設する。 ・警防課を警防計画課(計画係、装備係)に改める。救急課(救急対策係)を新設する。情報司令課(情報管理係、司令係)を新設する。消防署管理調査係を廃止し、消防課を新設する。警備課を警防課に改める。 ・小田原消防署に高度救助隊を発足する。
平成31年4月1日	機構改革により、広域調整課を廃止する。 ・消防総務課を総務係と政策調整係とする。



出初式の様子(年代不明)